

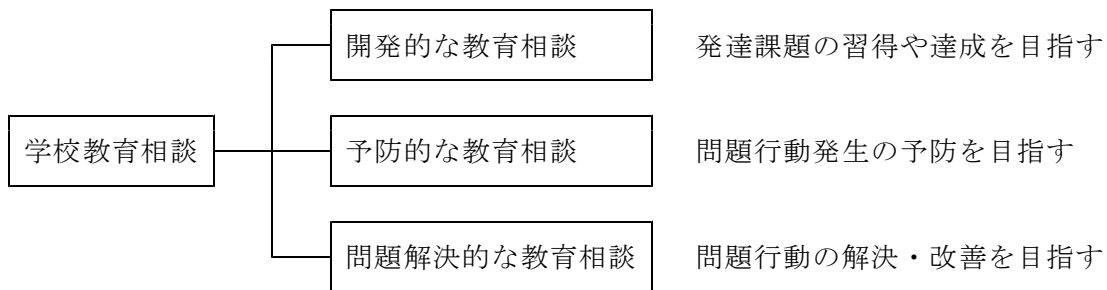
実施過程	実施内容・要点	時間 90分	プレゼン 進行者の主な指示例・発問例	*留意点 【 】内は使用する資料名
はじめに	◎本校内研修の概略説明 ○ウォーミングアップ 1 ねらいの確認 (1) 開発的・予防的な教育相談の機能を生かして学級の人間関係づくりを行う意義を理解することができる。 (2) 構成的グループエンカウターの演習を通して、教育相談の手法を用いた良好な人間関係づくりを体験的に理解することができる。	5	1 [説明] 今日「教育相談の手法を生かした学級の人間関係づくり」について研修します。 (指示) 研修の前にウォーミングアップをしましょう。「この色なーんだ！」です。私がこれからある色を言います。その色から連想するものを10秒でイメージしてください。10秒後に隣の人と何をイメージしたか伝え合ってください。では、始めます。「赤」。 2 10秒たったので、何をイメージしたか隣の人と伝え合ってください。(約1分後)では、次の色からまた連想してみてください。「紫色」。10秒たったので隣の人と伝え合ってください。(約1分後)同じ色でも、先生方によっていろいろな連想をしておもしろかったですね。 [説明] それでは研修に入っていきます。今日のねらいを確認します。今日のねらいは「開発的・予防的な教育相談の機能を生かし、学級の人間関係づくりを行う意義を理解する」「構成的グループエンカウターの演習を通して、教育相談の手法を用いた良好な人間関係づくりを体験的に理解する」の2つです。	*席は自由 *ミニエクササイズを通して自由に意見を言い合える雰囲気をつくる。 【テキスト資料】 *学校の実態と関連づけて、本校内研修のねらいを説明する。(例：「人間関係が固定化しているので解消したい」「人付き合いが苦手な子が多いので意図的に関わらせたい」等)
I 説明	2 学校教育相談の3つの機能の説明 ・学校教育相談 <ul style="list-style-type: none"> ┌ 開発的な教育相談 ├ 予防的な教育相談 └ 問題解決的な教育相談 3 開発的・予防的な教育相談の大切さの説明 社会・環境の変化 ↓ (1) 自己肯定感の低さ、人とかかわる技能・社会性の未熟さ →問題発生、時間と労力の浪費 ↓ (2) 生活集団が機能しない状況 →個が育たない、学習の成立しにくさ 4 開発的・予防的な教育相談の手法と効果の説明 ・構成的グループエンカウンター・プロジェクトアドベンチャー ・ソーシャルスキルトレーニング・アサーショントレーニング ・ストレスマネジメント・アンガーマネジメント	12	3 [説明] 学校教育相談は、児童が発達段階で習得すべき課題、例えば、積極性や勤勉性、集団生活への適応などの習得や達成を目指す「 開発的な教育相談 」、問題行動の予防を目指す「 予防的な教育相談 」、問題行動の解決・改善を目指す「 問題解決的な教育相談 」の3つに分けられます。問題解決的な教育相談だけでなく、開発的な教育相談、予防的な教育相談の側面に注目することが大切です。 4 [説明] 昨今、少子化・核家族化、子どもの生活時間や遊びの空間、仲間の変化などにより、児童には「 自己肯定感の低さ、人とかかわる技能・社会性の未熟さ 」などの傾向がみられます。また、それらの傾向は、いじめや非行の低年齢化など様々な問題行動につながっています。そして、その対応には多くの時間や労力を割かなければならない状況にあります。また、日本の学級集団は生活集団と学習集団の2つの側面を持っていますが、学級はかつてのように学級を組織・編成すれば生活集団として機能する状況ではありません。生活集団が機能しない状況が続くと、個が育ちません。また、学習が成立しにくくなることもあり、学力の向上も期待できないということにもつながっています。このように、問題の背景や学校の現状を考えると、問題が起こってから対応するのではなく、開発的・予防的な視点をもってすべての児童や学級集団を育てていくことがとても重要になっているのです。(だから 開発的・予防的な教育相談の理論と手法 を生かして個や集団を育てていくことが大切なのです) 5 [説明] 開発的・予防的な教育相談の手法は「構成的グループエンカウンター・プロジェクトアドベンチャー・ソーシャルスキルトレーニング・アサーショントレーニング・ストレスマネジメント・アンガーマネジメント」などがあり、それぞれの目的、効果があります。どれも望ましい人間関係などを形成するものとして役立つものです。今日は、この中のあたたかな人間関係を体験できる「 構成的グループエンカウンター 」を具体的に研修していきます。	【テキスト資料・参考資料】 *問題解決的な教育相談だけではなく、開発的・予防的な教育相談の側面にも注目させるため、次の説明でその重要性を強調する。 *児童の実態を例として挙げながら、児童の傾向や対応の困難さを想起できるようにし、進行者の思いや研修の意図が伝わるようにしたい。 *日本の学級集団の特殊性、生活集団と学習効果の関わりについてふれる。 *個人と集団の視点から人間関係づくりを行う必要性につなげて説明する。 *ここでは活動名のみ紹介する。
II 演習	5 構成的グループエンカウンターについての説明 (1) 構成的グループエンカウンターとは 「構成的」→教師が、実施するエクササイズ、時間参加人数など約束事を決めて行うこと 「エンカウンター」→心と心のふれあい、本音と本音の交流 ⇒「自己開示」を大切に (2) ねらい・目的 ・自己理解・他者理解・自己受容・自己主張・信頼体験・感受性の促進 (3) 進め方 ・導入→ウォーミングアップ→インストラクション→エクササイズ→シェアリング(振り返り) ⇒ 人間関係の体験+振り返り =思考・感情・行動の修正・拡大 (4) ルール・留意点 ①知ったことは他では話さない ②話したくないことは無理しなくてもよい ③参加したくないときは参加しなくてもよい ④実施は、教師の指示が通る学級であることが前提 ⑤エクササイズをうまくやらせようとしな ⑥悪ふざけしないで素直にフィードバックしあ ⑦心的ダメージを受けた児童へのアフターケア 6 構成的グループエンカウターの演習 (1) ジャンケンボーイ(勝ち)(負け) (2) ジャンケン列車 (3) 新聞紙の使い方 (4) ○○○の言葉 (5) 私はあなたが好き	8	6 [説明] 構成的グループエンカウンターとは、教師が、実施するエクササイズや時間、参加人数、その他約束事を決めて行い、集団場面での本音と本音の交流活動を通して、あたたかな裏腹のない人間関係を体験するものです。そのため、自分の気持ちや考えなどを自己開示したり、ありのままに話したりすることを大切にします。 7 [説明] ねらいとしては、自己理解・他者理解・自己受容・自己主張・信頼体験・感受性の促進の6つがあげられ、最終的に行動の変容と人間的な成長を目指します。 8 [説明] 構成的グループエンカウンターは、ウォーミングアップ→インストラクション→エクササイズの順に進め、最後にはシェアリング(振り返り)を行います。導入では、事前に児童に簡単な内容の伝達をし、ウォーミングアップを行います。インストラクションでは、エクササイズの目的・内容を説明し、その後、エクササイズを実施します。そしてシェアリングを必ず行い、エクササイズを通して感じたこと・気付いたことを分かち合います。エクササイズを通して 人間関係を体験 し、シェアリングを通して 体験を振り返 ることによって、自分の思考・感情・行動を修正したり広げたりしていくということです。 9 [説明] 構成的グループエンカウターのルールと留意点について説明します。ルールには、エクササイズやシェアリングを通して知ったことは他では話さない、どうしても話したくないことは無理に話さなくてもよい、どうしても参加したくないときは参加しなくてもよいなどがあります。留意点には、教師の指示が通る学級で実施する、エクササイズをうまくやらせようとしな、悪ふざけしないで互いに素直にフィードバックしあうよう促す、心的ダメージを受けた児童へのフォロー、アフターケアを怠らないなどがあります。なお、ルールや実施上の留意点の詳細については、参考資料の2～3ページを見てください。	【テキスト資料・参考資料】 *ウォーミングアップを例に話すとよい。 *エクササイズはゲームではないことを強調しシェアリングを必ず行うことを確認する。 *ワンネス→ウイネス→アイネスの順の構成がよいこともふれる。 【演習進行案】
III まとめ	◎ 活動の振り返り ◎ 進行者のまとめ 構成的グループエンカウンターなどの(開発的・予防的)な教育相談の手法を活用+人間関係の(体験)と(振り返り)の実施、積み重ね ↓ 好ましい人間関係が醸成 個の成長、集団の高まり	5	《発問》今日の演習はいかがだったでしょうか。演習全体を通しての感想を発表してください。発表の感想にあったように、つながりを感じたり、相手や自分のことを理解できたなどという感じを他の先生方ももたれたでしょうか。児童もこのような体験ができるといいですよ。 11 (指示) 今日のまとめです。テキストのまとめの()に今日のキーワードを入れて確認してください。(1分程度時間を取る) [説明] 現代の子どもは社会・環境の変化の中、様々な問題を抱えています。このような状況の中、今回の 構成的グループエンカウンター に代表される 開発的・予防的な教育相談 の手法を活用し、(先生方が実感されたように)自分の思考や感情・行動を修正・拡大していけるような 人間関係を体験 することができれば、児童の自己肯定感が高められたり、人と関わる技能、社会性が育成されることが期待されます。ぜひ、積極的に開発的・予防的な取り組みをし、児童を、集団を育てていきましょう。 (称賛) 今日は、先生方の熱心な取り組みがたいへん印象に残りました。ありがとうございました。	*数名に研修の感想を自由に発表してもらおう。 【テキスト資料】 *先生方の実感を通して、開発的・予防的な教育相談の手法による人間関係づくりが有効であることをまとめていく。

学級の人間関係づくり①—構成的グループエンカウンター—

1 研修のねらい

- (1) 開発的・予防的な教育相談の機能を生かして学級の人間関係づくりを行う意義を理解することができる。
- (2) 構成的グループエンカウターの演習を通して、教育相談的手法を用いた良好な人間関係づくりを体験的に理解することができる。

2 学校教育相談の3つの機能



3 今なぜ、開発的・予防的な教育相談が大切なのか？

- (1) 自己肯定感の低さ、人と関わる技能・社会性の未熟さ
→問題の発生、対応に多くの時間と労力
- (2) 生活集団が機能しない状況
→個が育たない、学習が成立しにくい

4 開発的・予防的な教育相談的手法と効果

活動名	目的
構成的グループエンカウンター	集団場面での本音と本音の交流活動を通して、あたたかな、裏腹のない人間関係を体験する。
プロジェクトアドベンチャー	グループ活動を通して、チームワーク、自己・他者への気付きを深め、信頼関係を構築する。
ソーシャルスキルトレーニング	良好な人間関係づくりを保つための知識・技術・コツについて、様々な場面を想定した体験を通して身につける。
アサーショントレーニング	自分も相手も大切にしたい自己表現について、様々な場面を想定した体験を通して身につける。
ストレスマネジメント	ストレスを軽減し、心身の健康を保ち、各人の本来の能力を十分に発揮できるようにする。
アンガーマネジメント	自分の怒りに対する理解を深め、適切な表現方法を身につけることで、衝動的な行動を予防する。

5 構成的グループエンカウンター

(1) 構成的グループエンカウンターとは

「構成的」とは、リーダー（教師）が、実施するエクササイズ、時間、参加人数、その他約束事を決めて行うということ。

「エンカウンター」とは、『心と心のふれあい』であり、『本音と本音の交流』である。

↓

構成的グループエンカウンターが最も大切にすることは、「自己開示」

(2) ねらい・目的

- ① 自己理解：自分の気持ちや本音に気付く
- ② 他者理解：他者の気持ちを知り受け入れる
- ③ 自己受容：自分の気持ちや本音を受け入れる
- ④ 自己主張：自分の気持ちや考えを主張する
- ⑤ 信頼体験：信頼にかかわる葛藤や責任を味わう
- ⑥ 感受性の促進：他者の気持ちを感じ取ったり、自分の思いの伝わり方を知ったりする

(3) 進め方

導入→ウォーミングアップ→インストラクション→エクササイズ→シェアリング（振り返り）

※ 人間関係の体験 + 振り返り = 思考・感情・行動の修正・拡大

(4) ルール・留意点

- ① 参加できない、話せない児童に対しては、強制しない
- ② 実施については、教師の指示が通る学級であることが前提である
- ③ エクササイズをうまくやらせようとしない
- ④ 悪ふざけしないで素直にフィードバックしあう
- ⑤ 心的ダメージを受けた児童へのアフターケアを行う

6 構成的グループエンカウターの演習

- (1) ジャンケンポイポイ（勝ち）（負け）
- (2) ジャンケン列車
- (3) 新聞紙の使い方
- (4) ○○○の言葉
- (5) 私はあなたが好きです

7 まとめ

構成的グループエンカウンターなどの
() な教育相談の手法を活用

+

人間関係の () と () を積み重ねることで

↓

- 個 の 成 長（自己肯定感、人とかかわる技能・社会性の高まり）
- 集団の高まり（親和感に満ちた生活集団→学習集団として機能）
- ※ 教師と児童の信頼関係及び児童理解の深まり

学級の間関係づくり—構成的グループエンカウンター—

構成的グループエンカウンター

(structured group encounter ; 略称SGE)

1 構成的グループエンカウンターとは

(1) 「構成的」とは

リーダー（教師）が、実施するエクササイズ、時間、参加人数、その他約束事を決めて行うということ。

(2) 「エンカウンター」とは

「エンカウンター」とは、『心と心のふれあい』であり、『本音と本音の交流』である。肯定的なあたたかい雰囲気の集団を作るための開発的カウンセリング、サイコエジュケーション（心理教育）の一技法として学校や職場で広く普及しつつあるものである。

2 構成的グループエンカウンターが最も大切にすること

「自己開示」

(1) 自分に関する事実を話す

(2) 自分の感情を話す

(3) 自分の価値観・考えを話す

} 他者との関係性を築いていく上でベースとなる。

3 構成的グループエンカウンターのねらい・目的

自己理解、他者理解、自己受容、自己主張、信頼体験、感受性の促進を通して、行動の変容と人間的な成長を目指す。

例えば……

- ・自分の意見を言えなかった児童が言えるようになる。
- ・自己中心だった児童が、少しは他者のことも考えられるようになる。
- ・自分のことが嫌いな児童が、少しは自分のことが好きになる。
- ・今まで自分一人で生きてきたように感じていた児童が、他者の支えのおかげで生きていることに気付く。
- ・「辛いのは自分だけではないのだから、弱音を吐いてはいけない」と思っている児童が、信頼できる仲間との出会いを通して、弱音を吐けるようになる。 等々

①自己理解；「今、ここで」の自分自身の気持ちや本音に気付く。

②他者理解；他者の気持ちや本音を知り、受け入れる。

③自己受容；「今、ここで」の自分自身の気持ちや本音を受け入れる。

④自己主張；自分の気持ちや考え、意見を主張する。

⑤信頼体験；他者を信頼しようとするときの葛藤や、他者から信頼されたときの責任の重さを味わう。

⑥感受性の促進；他者の気持ちを感じ取ったり、自分の思いがどのように他者に伝わるのかを知る。

4 構成的グループエンカウターの進め方（手順）

- (1) 事前に児童に簡単な内容の伝達をする。
- (2) ウォーミングアップを行う。
- (3) エクササイズの目的・内容を説明する（インストラクション）。
- (4) エクササイズを実施する。
- (5) シェアリングをする（エクササイズを通して、感じたこと・気付いたことを分かち合う）。

* 40～45分で一つのエクササイズを行う場合は、この手順を進める。短時間でを行うエクササイズをいくつか続けて実施する場合、(2)を省略することもできる。どのような場合でも(5)は必ず行う。これを行わないと、ただの「ゲーム」になってしまう（深まりがなくなってしまう）。

5 エクササイズとは

心理面の発達を促す達成課題のこと

- * 「エクササイズ」≠「ゲーム」
「ゲーム」……………楽しむための一つの方法
「エクササイズ」……………心理面の発達を促す達成課題

6 エクササイズの構成

- (1) ワンネス……相手との一体感を求める体験（「あなたのことを知りたい」）
- (2) ウイネス……相手の足しになることを何かする体験（「私はあなたの味方です」）
- (3) アイネス……「私には私の考えがある」と自分の考えを開けっぴろげに打ち出す体験

* 年度初めは「ワンネス」に関するエクササイズを、学校生活や新しい学級等に慣れてきたら「ウイネス」に関するエクササイズを、クラス内の人間関係が良好で（学級内にルールが定着して）、さらにワンランク上をめざす段階にまでクラスの雰囲気が高まってきたら「アイネス」に関するエクササイズを実施する、というような流れが基本的である。

7 構成的グループエンカウターにおけるルール

- (1) ここで知ったことは他では話さない（注；内容にもよる）。
- (2) どうしても話したくないことは無理に話さなくてよい。
- (3) どうしても参加したくないときは参加しなくてよい。

* (3)が通常の授業等との大きな違い。参加したがる児童（エクササイズに抵抗を示す児童）へは、以下のように対応することが基本である。

- ・自分の意志を表明できたことを認める。
- ・エクササイズに参加しなくても、何かの役割を担当させる。
- ・本人の了承を得て、「参加したくない」理由を開示させる（紹介する）。
- ・抵抗に気づかせる。
- ・行動のパターンに気づかせる。
- ・同じような感情を抱いた児童がいないか確認し、そのことに関するシェアリングを行い、自己理解・他者理解・自己受容・他者受容につなげる。 等々

8 実施上の留意点

(1) 教師も積極的に参加し、自己開示する。

(2) エクササイズをうまくやらせようとしない。感じたことを重視する。

* 教師の多くは、エクササイズを「やらせよう」としてしまうため、児童にきちんと「取り組ませる」ことにエネルギーを費やしてしまう。エネルギーを費やす部分は「いかにして児童に気付きを促すか」の部分である。

(3) 特定のペアでの活動にならないようにする。

(4) 悪ふざけしないで、互いに素直にフィードバックしあうよう促す。

* ルールの乱れた学級集団に対して構成的グループエンカウンターを実施すると、エクササイズやシェアリングの最中、同級生から嫌なことを言われたり、不快な対応をされたりすることで傷つく児童が出てきたり、クラス全体が落ち着かない雰囲気になったりと、クラスの状態が構成的グループエンカウンターを実施する前よりもさらに悪化することがある。

構成的グループエンカウンターは「開発的カウンセリングの一技法」であり、「問題解決的カウンセリング（例 学級崩壊からの立て直し等）」として活用するには、豊富な経験と高度な技能が要求される。経験の浅い教師は、あくまでも「開発的カウンセリングの一技法」としてエンカウンターを活用することが望ましい。

(5) 心的ダメージを受けた児童へのフォロー、アフターケアを怠らない。

* 従って、構成的グループエンカウンターを実施する教師には、教育相談的な知識・技能が欠かせない。リーダーにその知識・技能がない場合、知識・技能のある他の先生方に応援を頼むとよい。

(6) 児童の実態に応じて、適宜展開の方法を考えていく。

ジャンケン列車！

（低・中学年向き）

〈準備物〉

- ・CDプレーヤー、楽しい音楽
- ・シェアリング用の顔マーク各1つ（にこにこ顔、普通の顔、悲しい顔）

インストラクションとエクササイズで8分 + シェアリング2分

インストラクション

- ・「今日は、“楽しい雰囲気”をつくるために、これからみんなで活動します」
- ・「これからジャンケンのチャンピオンを決めます。負けた人は、勝った人に列車のようにつながってください。音楽をかけるので止まったときにジャンケンをしてください。音楽が止まったときには、必ずジャンケンの相手を見つけてください」



エクササイズ

- ・「では始めます」
 - ・音楽に合わせて自由に歩く。
 - ・音楽が止まったとき、近くにいる二人でジャンケンをする。負けた人が、勝った人の後ろにつき、両肩に手を置いてつながる。
 - ・つながってできた列車同士で、音楽が止まったときに合わせてジャンケンを繰り返す。
- ・「最後の2つの列車です。みんなで注目しよう。ジャンケンポン」
- ・「〇〇さん、優勝おめでとう。〇〇小学校の1つの大きな列車ができました。〇〇号の完成です」（拍手）
- ・「今の列車のままで、今日の活動のお礼に前の人を軽くたたいてあげましょう（トントントン）。今度は、回れ右をして肩たたき（トントントントン）」



シェアリング

- ・「今どんな気持ちですか、発表してください」

実施上の留意点

- (1) 学年によっては、以下の内容をインストラクションに入れてもよい。
「逃げていたり、手をつながなかったりすると列車にならなくなってしまいますから、ちゃんとつながってください」
- (2) 一人でいる児童には、声をかけてジャンケンできるようにしていく。また、ふざけている児童にも声をかけて取り組みを促していく。
- (3) 感想発表後、低学年では以下のことを話すと効果的なシェアリングができる。
 - ・（顔のマークをはって）「自分の今の気持ちのところに移動してください」
 - ・「どういうところから、そう感じたのか、みんなに話してください」
 - ・「〇組のみんなで一緒に活動して楽しかったね。また仲よく活動して、大きな〇組列車をつくりましょう」
- (4) 2回目は、行儀のよいジャンケン列車を行うのもよい。（出会ったら、「こんにちは」「お願いします」とあいさつをして、握手をしてからジャンケンをする。）

ジェスチャーで「新聞紙の使い方」！

（中・高学年向き）

〈準備物〉

- ・新聞紙（1班2日分程度+予備）
- ・筆記用具
- ・ゴミ袋
- ・記録用紙（1班1枚+予備）

- ・4～6人組になっておく

- ・今回は4人組。「ジャンケン列車」の先頭から1～4の番号を言い、番号ごとにグループをつくる（3分）
- ・必要に応じて男女のバランスを調整する
- ・インストラクションとエクササイズで12分

インストラクション

- ・「このエクササイズは、言葉を使わずに、表情や身振り手振りだけで思いついたアイデアを伝えます。自分の思いを伝えたり、相手の思いを分かたりする体験を通して、関係をより親密にしましょう」
- ・「メンバーの一人が、新聞紙のいろいろな使い方を考えて、身振り手振りのジェスチャーだけで伝えます。他のメンバーはそのジェスチャーを読み取って、どんどん声を出して正解を探り当てます。正解が出たらジェスチャーをしている人は指でOKのサインを出します。5分間行います」
- ・「新聞紙は丸めてもちぎってもどんなふうに使ってもOKです」
- ・「順番にやっていきますが、どうしても使い方が思い浮かばないときや読み取れないときは、パスしてもいいです。正解が出たら、記録用紙にリストアップしていきます」
- ・「実施後は、各グループで新聞紙の使い方がいくつ出たかを確認します。それから、グループのユニークな発想も尋ねます」

※ 説明の後、モデリングを行う

エクササイズ

- ・「メンバーが輪になって座りましょう」
- ・「スタートする人を決めましょう」
- ・「時計回りで回ります。5分間行います。では始めます」

- ・最初の人から、ジェスチャーを始める。
- ・正解が出たら、記録して次の人へと進む。

- ・「はい、そこまで」
- ・「それでは、いくつ正解できたかをききますので、できた数のところに手を挙げてください。5つからいきます。5つ、6つ、7つ・・・」
- ・「1番多かった〇班に拍手しましょう。（拍手）では、〇班ではどんなものがでたかをきいていきますので教えてください」
- ・「その他の班で、〇班の発表以外にユニークな利用法があったら教えてください。（各班の発表→拍手）」

実施上の留意点

- (1) 説明の後、教師がモデリングするとよい。
「例えば、イスの使い道を先生がジェスチャーしてみますから、分かった人は手を挙げてください」
- (2) ジェスチャーをする人は無言を徹底する。
- (3) 「コツは心で読み取るんだ」と介入してもよい。
- (4) 最後に、グループごとに“きれいに片付ける競争”をしてもよい。

「〇〇〇の言葉」!

（中・高学年向き）（低学年も可）

〈準備物〉

- ・カード3種類（A・B・C）を班数分（封筒に入れて準備）
 ※ カードはA4で文字ポイントを500で作成するとよい

- ・4～8人組になっておく

- ・今回は4人組。「新聞紙の使い方」の班でそのまま実施する
- ・インストラクションとエクササイズで10分 + シェアリング5分（新聞紙の使い方も含む）

インストラクション

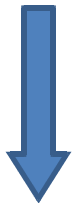
- ・「このエクササイズは“グループ全員で力を合わせて”、有名な言葉（私の言葉・名言）を完成していきます」
- ・「有名な言葉は、一文字ずつ切り離して大きなカードにしてあります。このカードを床に置き、グループ全員で力を合わせて並び替えてひとつつながりの言葉にしていきます」
- ・「Aのカードから始めます。できたら私をよんでください。正解かどうか確認します」
- ・「正解だったら、Bのカードにチャレンジしてください。3つできたら終了です」
- ・「5分間行います」



- ※ カードは、各班にA・B・Cを一度に渡す
- ※ 班の間隔をできるだけとるようにする

エクササイズ

- ・「注意することは、隣のグループを見ないで頑張ることです。では始めましょう」



- カードA「ともだちはいいものだ」
- カードB「負けても終わりではない。やめたら終わりだ。」（ニクソン）
- カードC「何かを学ぶためには、自分で体験する以上にいい方法はない。」（アインシュタイン）

- ・正解を進行者に確認してもらったら、次の言葉に挑戦する

シェアリング

- ・「はい、そこまで」
 ※ シェアリングは「新聞紙の使い方」と「〇〇〇の言葉」を合わせて行う
- ・「やってみて感じたこと、気付いたことを発表してください」

実施上の留意点

- (1) 恥ずかしがっている児童、やり方の分からない児童、参加していない児童がいた場合は、励まし、支援を行う。また、一部の児童で実施している場合は、全員で協力して行うように声をかける。
- (2) 感想発表後、低学年では以下のように話すと効果的である。
 ・「これからいろいろなことがあると思うけど、今みんなでそろえた言葉一つ一つを大切にしながら学級をつくっていきましょう」
- (3) 設定した時間内に並び替えることができなかつた場合は、真剣に取り組んでいた姿や互いに協力し合っていた様子について称賛の言葉をかける。
- (4) 言葉は、学年や児童の実態に合わせて内容や文字数を考える。（ひらがなのみの言葉は難しい）

「私はあなたが好きです。なぜならば・・・」!

（低・中・高学年向き）

〈準備物〉

・なし

・4～6人組になっておく

・今回は4人組。これまでの班でそのまま実施する
・インストラクションとエクササイズで12分 + シェアリング5分

インストラクション

- ・「最後は『私はあなたが好きです。なぜならば・・・』というエクササイズをやります」
- ・「人にはそれぞれ良いところがたくさんありますよね。しかし、それに気がついていてもふだんそれを言ってあげる機会はなかなかありません。そこで今日は、“良いところ、頑張っていること、素敵などころをたくさん言ってあげる”ことをしたいと思います」
- ・「今日は同じ班のメンバーに言ってあげましょう。『私はあなたが好きです。なぜならば』に続いて、良いところ、頑張っていること、素敵などころなどを、40秒の間に伝えます」
- ・「一人の発表が終わったら次の人、次の人と発表していき、2分間行います」
- ・「そして、メンバーの最初の人への『私はあなたが好きです。なぜならば～』が終了したら、2番目の人・3番目の人へと伝えていきます」（→班の中での進め方が分かったかを確認する）
- ・「約束は1つです。話す人は、良いところ、頑張っていること、素敵などころなどのどんな小さなことでもいいので、その人に一生懸命伝えるということです」「一緒に班で活動して感じたよさ、よい印象・イメージもOKです」
- ・「それでは、それぞれの人に何を言おうか、考えてみましょう」

※ 説明の後、モデリングを行う

エクササイズ

- ・「メンバーが輪になって座りましょう」
- ・「まず誰に言ってあげるか、決めます。その人の左隣の人から発表していきましょう」
- ・「確認します。一人に伝える時間は2分間です。3人全員が伝えますので一人あたり40秒ずつ伝えることになります。2分経過したら『一人目終了です』と声をかけます。では始めます」
- ・最初の人に、他の3人からの「私はあなたが好きです。なぜならば～」を行う。
- ・一人目が終わったら次の人に行う。（2分×4回＝8分）

シェアリング

- ・「はい、そこまで」
- ・「たくさん良いところを知らせてあげました。そして、たくさん良いところを言ってもらいました。今どんな気持ちですか。今の班の中で、感じたこと、気付いたことを一人一人発表していきましょう。全体で2分の時間をとるので、一人30秒ずつ発表してください」（→2分後に、終了の声をかける）
- ・「グループでどんな話が出ましたか。全体に発表してください」（→班をいくつか指名する）

実施上の留意点

- (1) 説明の後、教師がモデリングするとよい。（40秒で行う）
「私はあなたが好きです。なぜならば、〇〇さんが誰も見ていないところで、廊下に落ちていたゴミを拾っている姿を見かけたからです。誰も見ていなくても拾うなんてとても素敵だなと思いました」
- (2) 大袈裟な表現でよいことを伝える。
- (3) 一人40秒の発表としたが、学年によっては時間を制限せず、短い言葉でどんどん発表していてもよい。

〈参考文献一覧〉

- | | | |
|------------------------------------|------------------|-------|
| ◇ 生きる力を育てる授業実践プログラム（小学校編） | 福島県教育センター教育相談チーム | |
| ◇ エンカウンターで学級が変わる 小学校編 | 國分康孝監修 | 図書文化 |
| ◇ エンカウンターで学級が変わる 小学校編 Part 2 | 國分康孝監修 | 図書文化 |
| ◇ エンカウンターで学級が変わる 小学校編 Part 3 | 國分康孝監修 | 図書文化 |
| ◇ エンカウンターで学級が変わる 中学校編 | 國分康孝監修 | 図書文化 |
| ◇ エンカウンターで学級が変わるショートエクササイズ集 | 國分康孝監修 | 図書文化 |
| ◇ エンカウンターで学級が変わるショートエクササイズ集 Part 2 | 國分康孝監修 | 図書文化 |
| ◇ 構成的グループエンカウンター事典 | 國分康孝総編集 | 図書文化 |
| ◇ エンカウンターとは何か | 國分康孝他共著 | 図書文化 |
| ◇ エンカウンタースキルアップ | 國分康孝他共著 | 図書文化 |
| ◇ 構成的グループ・エンカウンター | 片野智治 | 駿河台出版 |
| ◇ 構成的グループ・エンカウンターの原理と進め方 | 國分康孝・片野智治 | 誠信書房 |